

## 第三者意見

各社のレポートを専門的観点からご覧になられている緑川芳樹氏に本年も第三者意見をいただきました。2度にわたるレビューでご指摘いただいたご意見は、できる限り本レポートに反映しています。



バルディーズ研究会 共同議長  
グリーンコンシューマー研究会 代表

緑川 芳樹

今回の特集1「水源涵養活動」は、サントリーグループのCSRビジョン「水と生きる」の実践であり、このレポートをきわだたせています。2008年末に策定した、その面積を2011年末までに約4倍の7,000haに拡大するとの中期目標を達成する勢いで進んでいます。その努力はサントリーグループへの高いCSR評価に結びついています。環境活動全般を見ても、CO<sub>2</sub>排出量削減の目標設定、容器包装の3R活動、ペットボトルのボトル to ボトルへの新たな展開などの進展が見られます。特集2は、サントリーグループの社会との共生に関わる理念「利益三分主義」の実践である文化・社会貢献活動の記念すべき節目の特集です。その継続性に敬意を表します。

レポート全体として、CSR評価に必要な情報が相当に盛り込まれ、品質への徹底したこだわりが読み取れる「安全・安心への取り組み」をはじめ、一段ときめ細かくつくり上げられました。海外事業会社の活動はWebサイト中心ですが、本誌でも重点的な記載が見られます。

「社員」の分野では、ダイバーシティ推進室の設置が

特筆できます。この課題についての重要性(マテリアリティ)の高まりを推察でき、その具体的な取り組みとして女性管理職登用の上昇は高く評価できます。今後は経済協力開発機構(OECD)から先進国の中でも日本が低いとの指摘を再三受けている女性労働力率に関連して、女性社員比率の向上を含め、さらなるダイバーシティを進めていただきたいと思います。

また、全体の問題でもありますが、情報開示の対象範囲が限定的です。中期的課題として連結決算レベルに最大限近づけるよう望みます。

東日本大震災に遭遇して、サントリーグループの支援活動はきわめて積極的です。今後、一部報道もされていますが事業継続計画の強化、一層の省エネ・節電活動の推進などの取り組みを強めてください。

CSR活動が定着しつつあるなかで、2010年11月企業のみならずあらゆる組織に社会的責任を求めるISO26000ガイダンス規格が発行されました。この中の7つの中核課題では「人権」問題など新たな課題も提起されています。社会的課題の解決のためには政府・行政の政策責任、企業など組織の社会的責任、個人の責任のそれぞれが十分に果たされることが必要です。この規格発行を契機とし、あらためて自社の社会的責任について振り返り、新たな展開を図っていただくよう期待します。

### 第三者意見をいただいて



サントリーホールディングス株式会社  
執行役員 広報部長 CSR推進部担当

濱岡 智

東日本大震災で被災された方々に謹んでお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興・再生に向けて、グループをあげて支援に取り組んでいく所存です。

サントリーグループは、CSRビジョン「水と生きる」に基づき、大切な地球資源である「水」のサステナビリティを軸とした環境経営を推進し、創業時からサントリーの理念である「利益三分主義」に根ざした文化・社会貢献活動を積極的に展開してまいりました。活動内容に

対し、高い評価をいただいたことを励みに、さらに取り組みを前向きに進めてまいります。一方で、いただきましたご提言は、当社のCSR課題を的確にご指摘いただいていると受け止めており、今後の活動に活かしてまいりますと考えています。特に、事業のグローバル化の進展とともに、国際標準を見据えたCSR活動への取り組みがますます重要になってくると認識しています。

今後とも、「Growing for Good」な企業をめざして、グループCSR活動の充実と情報開示に努め、力強く社会的責任を果たしてまいります。本レポートに関する皆様方からの率直なご評価・ご意見をお待ちしています。